

令和元年度 磐田市立豊田中学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から	
授業づくり	◎未来や社会につながる授業づくり ○「こころざしを実現する力」を育む場面の設定 ○「こころざし」を育む主体的で対話的で深い学びの実現 ○ESDの視点から教科の本質を押さえた教材研究	授業の内容がよく分かれると答える生徒 85%	B	79%	○全国学力・学習状況調査において、本校3年生の学力定着状況は国語は書くこと、読むことが強く、特に読むことは全国平均を下回った。半面、言語についての知識等は高い。数学は数と式、記述式問題以外のすべてで、県平均を下回った。特に、関数と選択式問題は全国をも下回った。英語は表現の能力と理解の能力が弱い。(全国平均を下回った。)また、話すことはすべての項目で弱い。質問紙からは、ICTの活用と英語関連の状況が弱いということが明確になった。 ※今年度の活動を踏まえ、以下の点をさらに充実させる。 ・各教科の改善点について共有し、可能な手立てを実践していく。 ・新学習指導要領の理念にある、ESDの視点に立った教科指導や主体的・対話的で深い学びに関する研修を今後も深化させていく。コロナ授業の実践を蓄積していく。	【学校運営協議会でご意見より】 ・立志式でみんながなりたいものや行きたい学校など、立派に考えられていてびっくりした。自分たちの頃はそんなに考えてなかった。そういうのを育てるのが学校かと思いついて改めて最新の学校教育に感謝する。 ・立志式を見せて頂いて、非常にはきはきとした発言で、心が洗われるような気持ちになる素晴らしい時間だった。一体校になると新たな取り組みがあり、話し合う場も出てくると思うが、保護者としてもアンテナを高くしていきたい。 ・行事の縮小の話があったが、学校の先生方の働き方改革のためやむを得ない。 ・交通事故に関して、下り坂、保護者として年に数回立ったことがあったが、自転車や猛スピードで来て、挨拶してもかわされてしまうほどのことがあった。危険を感じる。挨拶をすることで、ハツとしてくれたら。そのお手伝いをしたい。 ・自己肯定感、自己有用感を育てるには、誰かのために何かのために、助けてもらうだけでなく、助ける体験で育まれる。「ありがとう」の地域の人の顔で、ここにいる良いんだ、と思うことができる。そういう体験の場を、地域を巻き込んでできればと思う。 ・ハッピーフェスタや作品展、防災倉庫訓練、もちつきなど、生徒がボランティアで参加してくれて、大変よく働いてくれた。我々も楽しく活動できた。未来の若者が心を込めてやってくれよう。
		進んで先生に聞いたり自分で調べたりすると答える生徒 70%	A	90%		
志づくり	◎未来や社会につながる志づくり ○地域に根ざしたひと、もの、こととのかかわりの推進(地域学習、未来学習、職業講話、職場体験、防災学習等) ◎目標に向かって挑戦する自分づくり ○進路指導 ○道徳指導 ○健やかな心と体づくり	総合的な学習の時間を通して、今の自分や将来の目標について考えたり、自分の意見を発表したりしている と答える生徒 80%	B	78%	○総合的な学習の時間を中心に、1年生の「地域学習」や「ようこそ先輩」、2年生の「未来授業」や「職場体験」、3年生の「地域貢献活動」など、地域の「ひと、もの、こと」との関わりを生かした活動に取り組んできた。また、校内でも3年生が中学校生活で学んできたことを1、2年生に語る「先輩授業」を実施し、学んできたことをまとめ、発表する機会を設けた。「総合的な学習の時間を通して、自分や将来の目標について考えたり、自分の意見を発表したりしている」と答える生徒は全校で78%だった。昨年度より低下しているが、3年生は83%以上、1年生は73%となっている。アンケート調査の時期が、1年生が自分の志についてまとめる前になっているため今後上昇していくと思われる。ただ、全体としては昨年より低下しているため、様々な活動を自分の考えを醸成するための機会として捉えられるよう進めていきたい。また、昨年度と同様に地域の活動に関する意識はたいへん高いにも関わらず、「今、住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」と答える生徒の割合は64%とあまり高くない。中学校の活動は、地域の歴史や自然環境の学習にはなっていないので、そもそもアンケート項目を見直す必要がある。 ※今年度の活動を踏まえ、以下の点をさらに充実させる。 ・教師が事前にねらいを示し、目的の浸透を図る。 ・ただ漫然と活動に参加するのではなく、自分の志を考えるための活動であることをはっきり伝える。 ・活動後の振り返りを充実させ、その都度自らの志を振り返る機会とする。	
		今、住んでいる地域の歴史や自然について関心がある 70%	C	64%		
		進んで挨拶をすると答える生徒 95%	A	97%		
		難しいと思うことにも失敗を恐れずに挑戦していると答える生徒 75%	A	76%		
仲間づくり	◎心の居場所づくり 生徒が安心してできる、自己存在感や充実感を感じられる場所の提供 ・学年・学級づくり、生徒会活動 ・人間関係づくりプログラム、Q-U ◎絆づくり 生徒が主体的に取り組む活動を通し、自らが絆を感じ取り紡いでいく場と機会の設定 ・鉄人遠足、体育大会、合唱コンクール ・授業での学び合い、協働学習	学級は楽しいと答える生徒 95%	B	91%	○本校では、生徒にとって魅力ある学校づくりを目指し、「心の居場所づくり」と「絆づくり」の2本柱を中心とした生徒指導を行ってきた。具体的には、どの生徒も安心して生活でき、自己存在感や充実感を感じられる居場所をつくること、日々の授業や行事において、全ての生徒が活躍できる場面を実現することを通して、生徒自らが「絆」を感じ取り、紡いでいくことを目指した教育実践を行うこととし、その基盤となる学級経営に指導の重点をおくこととした。その結果として、「学級は楽しいと答える生徒」は、昨年の88%から91%へ、「みんなで何かをするのは楽しいと答える生徒」は92%から93%へ、「自分の学級は互いにルールを守り、協力する雰囲気があると答える生徒」は83%から90%へと、全ての項目において昨年度より向上が見られた。 ※今年度の活動を踏まえ、以下の点をさらに充実させる。 ・学年、学級経営をさらに充実させ、魅力ある学校づくりを推進する。 ・生徒の心に寄り添う指導をさらに実践し、生徒個々が抱える様々な問題や心の陰りに素早く気づき、丁寧に対応する。 ・社会規範に対して公正に判断、行動できるような判断力を育てていく。	
		みんなで何かをするのは楽しいと答える生徒90%	A	93%		
		自分の学級は互いにルールを守り、協力する雰囲気があると答える生徒 85%	A	90%		
		出席率 95%	A	96%		

学校関係者評価を受けてのまとめ

学校運営協議会を通じて多くのご意見をいただいた。協議会は、年3回実施し、委員の皆様には、授業や立志式等の行事の参観の他、総合的な学習の時間や3年生の面接練習の講師などに積極的に関わっていただいた。生徒は自分の志を温め、まじめに明るく学校行事や授業、地域行事に取り組んでいることを評価していただいた。全職員が学校教育目標の実現に向け、「志」をキーワードに教育計画をたて、カリキュラムマネジメントに取り組んできた成果であると考える。

生徒・保護者のアンケート項目の数値からは成果と課題が見えてくる。「授業の内容がよく分かる」「今、住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」の評価が低いが、「進んで先生に聞いたり自分で調べたりすると答える生徒」が72%から90%に大幅に向上している。ICTを活用した授業やコラボ授業に積極的に取り組んできた研修の成果が、生徒の学びへの主体性を伸ばすことにつながっていると考える。また、学校運営協議会委員の皆様のご意見からも、多くの生徒が地域で主体的に活動し、志の実現に向けて頑張る様子をご報告いただいた。総合的な学習や授業での学びが、地域での体験につながり、生徒の志づくりの充実につながっている。前年度の反省を踏まえ、地域や保護者を巻き込んで取り組んできた成果であると思う。

令和2年度は、学校教育目標を「志をもち、たくましく生き抜く生徒の育成」を継続する。一体校の開校を翌年に控え、そのための準備が本格化する年となる。シンプルでスリムな教育課程をベースに対応していく。学府運営組織は学府内の小中で共有する。「授業づくり」と「仲間づくり」の2つの課をおき、小中の横の連携を図る。SDGsの視点に立った教科指導、主体的・対話的で深い学びの研修を深め、地域との連携をさらに充実し、CSの機能を充実させながら全職員で生徒磨きの教育活動を展開したい。